

# 内藤幸男と座間の未来を考える会

## 市政ドリル 第31号

### 8月議会版

今回はいつもより早くお届け！！

責任感

郷土愛

情熱



座間市の市政を一緒に考えましょう！

#### 問1

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえた対応として、これまで一律5万円だった住宅リフォームの助成限度額を今年度限定で引き上げました。助成限度額はいくらになったでしょう？

①10万円

②15万円

③20万円

④25万円

#### 問2

今年度児童・生徒1人につき1台の学習用タブレット端末の導入が決まり、wi-fi環境が整っていない家庭にはモバイルルーターを貸出するための予算措置がされました。今回用意されるモバイルルーターの数は？

①150台

②250台

③350台

## 令和2年第3回定例会

### 「新しい生活様式」に対応するための補正予算を決定

今定例会では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から市民生活や経済活動を支え、「新しい生活様式」に対応するための補正予算案を可決、決定致しました。

「住宅リフォーム助成金増額」・・・低迷化した地域経済の活性化、在宅勤務の拡がりに対応すべく、これまで一律5万円だった同助成金の限度額を今年度限定で25万円に増額し、リフォームの範囲の拡大や申請要件の緩和を行います。

「モバイルルーター整備」・・・新型コロナの影響により今後も長期休業などが考えられる中、インターネット環境の有無によって教育格差が生じないよう、wi-fi環境の整っていない世帯に対してモバイルルーター250台を迅速に整備します。

「各種防災機材を整備」・・・コロナ禍の最中に地震や水害など複合災害が発生した場合を想定し、市民を守るために必要な防災機材(体温検知サーマルカメラやポータブル蓄電池など32種類)を揃えます。

その他にも、「新生児に対しての10万円給付」や「雇用調整助成金の活用に伴う申請手数料補助金」なども確定致しました。

確かな一歩の積み重ねで座間市の未来へつなぐ。

答え 問1 ④、問2 ②

## 内藤幸男と座間の未来を考える会

☎090-6107-3467 〒252-0028 座間市入谷東3-8-23

✉ zama@naito-yukio.com

HP



内藤幸男

検索

討議資料

自民党



# 令和2年第3回定例会一般質問と答弁の主な内容



8月21日の一般質問では「**関係人口の創出について**」、「**入谷駅周辺のまちづくりについて**」について質問をさせていただきました。

## \* 関係人口とは？

「定住人口」でも、「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人たちを現した言葉で、人口減少や少子高齢化が急速に進む我が国において、地方創生の方策として注目を集めているキーワードです。

## 質問① 本市ではこの関係人口をどのように考えているのか？

**企画財政部長**：関係人口は比較的新しい言葉ですが、この言葉が活用される以前からそのような視点を持ってシティプロモーションに努めています。県からも関係人口に関する情報を提供いただいております。今後は県との情報共有を図り、関係人口を意識しながら定住人口の増加に向けた取組みを推進します。

## 質問② テレワークやリモートワークをする方々を対象にした関係人口の創出について見解は？

**環境経済部長**：シェアオフィス、サテライトオフィス等の導入支援を実施する予定ですが、シティセールス・シティプロモーションの観点からもテレワークやリモートワークによって本市に継続的に関わって頂く方はもとより、地元の方々と共に地域活性化につながる仕組みを検討したいと考えます。

## 質問③ 農業体験を通じた関係人口の育成について見解は？

**市長**：農業体験などをシンボルとしたグリーンツーリズムの創出は、農業に興味を持つ方が増え、農地の保全と後継者問題の解決に向けての一助になると考えられます。また、コミュニティ醸成と地域の活性化にも意義があると受け止めています。

**環境経済部長**：緑豊かな自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の緑化活動を通じ、地域外の人材も含めた関係人口の創出につながると考えますが、将来の担い手による農地の集約や農地の連坦性等の影響から農業者による農地の利用が基本である事を十分に配慮する必要があると考えます。



## 質問④ 入谷駅周辺のまちづくりについてここ数年の短期的な考えと将来を見据えた長期的な考えは？

**市長**：入谷駅周辺のまちづくりについては、本市の都市マスタープランにおいて全体構想では、田園自然環境ゾーンを土地利用の方針として、農業振興地域の優良な農地の保全を掲げています。また地域別構想では、緑豊かな自然と調和した都市の形成を方針としていることから、農地として景観を含めて利用していくべき地域として保全方策の検討を進めています。一方、社会経済情勢の変化に伴い、少子高齢化の進展や農業就労人口の減少、新型コロナウイルスの影響によって大きな価値観の変化が出てくるのではないかと考えられます。これら様々な課題に複合的に対応することが必要不可欠であり、これらの課題に対応するために今後庁内関係部署で連携し一丸となって研究したいと考えています。

## 質問⑤ 入谷郷地や入谷プールを含む入谷駅周辺の活用について政策的な考えを伺います。

**市長**：入谷郷地は市内で最初に耕地整理がされた地区で、いふならば本市の田園風景の原風景ともいえる貴重な場所です。景観をいかしたまちづくりというものを今後の座間を考えた時には必要だと考えています。また、入谷プールは原状では大規模改修が必要な状況では無いため、当面は必要に応じ、修繕で維持しながらこれまでと同様な活用ができると考えています。プールの運営時間外の解放については、プールの運営期間は設置目的に沿った使用を致しますが、それ以外の期間は座間市使用財産記録に基づいて柔軟に対応が可能です。

議員がおっしゃられた、入谷郷地や入谷プールを含めたこの地区におけるグリーンツーリズムの創出は地域の課題解消や活性化につながると受け止めていますが、今後は、将来に向けて要望を重ねてきている相模線の複線化等の改良やこの秋に見込まれている県央道厚木PAのスマートインターチェンジの供用開始等による周辺環境の社会経済状況の大きな変化もありますので、地域の皆さんの考えと一体感を持ってさらに同地区のまちづくりについて研究・検討を重ねていきたいと思っています。

後援会へのご加入も随時募集しております。お電話090・6107・3467もしくはメールzama@naito-yukio.comにてご連絡ください。またご要望なども気軽にご相談ください。